時事新報

設計は改む可き事業は廢す可らず

鐵道問題も此程漸く鐵道會議の議決を經て今や衆議院特別委員の手にわり明二十日迄には其審査を了り次で衆議に付せらる可きの都合なるより原案者は申すに及ばず鐵道關係地方の議員及び運動委員は夜を日に繼ぎて心力を勞し烟を揚げて奔走する者、沫を飛ばして遊說する者、紛々擾々たる其有樣は過日の政府議會の騷突よりも賑かにして恰も熱渦の中に動搖するもの〻如し蓋し其紛擾の源因は二點あり一は鐵道敷設法の第一期線中に比較線なるものありて何れか取捨せざる可らざるより起りたる爭ひ、一は敷設法の第一期線に第二期の或る線をも繰上げ再調査をなさんとする修正派と一旦定めたる通り實行せんとする維持派との爭ひ即ち是れなり

比較線に對する我輩の所望は既に毎度述べたる如く專ら經濟上の便利を主眼として軍用の目的なぞは全く度外に拋棄し國防は軍艦を製造して之に充つ可しと云ふに在りしが政府の原案を見れば曾に此說の行はれざるのみか大半は軍用說に勝を制せられて爲めに費金も豫定額よりは更に二千餘萬圓の巨額を增加せざる可らざるに至りたりとは唯呆然たるの外なし抑も日本は富國に非ず國未だ富まざるものが巨大の資本を投下して之を鐵道に固定せしむるは素より容易の談にあらず唯み れ無ければ以て富を成すみと能はざるが故に他日の利益を期して暫く投資の苦痛を忍ぶの外なき次第は鐵道を論ずる者の先づ第一に心得居る可き筈にあらずや此心を以てして拔比較線を比較したらば成る可く經濟上に便利にして成る可く敷設費の低廉なるを撰むべきは理の當然また他を問ふに遑あらざる所なり左れば敷設法には第一期線工事の費用として六千萬圓と定めたれども我輩は尙ほ節儉を主とし鐵道は少々粗末にても實用をさへ爲せば則ち足れりと決心して只管ふれを當局者の注意に依賴せゝに一部の論者は歐洲諸國の軍用鐵道を見て國情の如何を問はず直に我國にも應用せんと欲し殊更に經濟に益なく費用に損ある線路を撰みて恰も大切なる國財を山に棄つるの策を案したるは殆んども其意の所在を知る可らず若しも一國を一家と見做し國財を私財と假定して設計したらば如何にして能く之を節行するに堪ふ可けんや今その最も甚だしき一例を擧ぐれば奥羽線中の能代線と仁別線なり是れは法定の比較線には非ざれども能代線の海岸に近きを危ぶみて軍用論者は仁別線なるものを新案し來り秋田より山間を經て鷹ノ巢に達せんとせしが此海岸線と山間線とは經濟上既に山間の大不利なるのみならず費用の點に於ては凡六百萬圓の大差あり同じく秋田より鷹ノ巢に至るの道中にして面かも十餘里程の短線路に着す〻凡六百萬圓を軍事の犧牲に供するとは實に堪へ難き限りなれば鐵道會議に於ても海岸線を取るみとに決したりしに政府は何故にや此議決にも拘はらず衆議院へ提出したる原案には仁別線を採用したり試に思へ六百萬圓の金は以て二百萬圓の軍艦三艘を造り得べきにあらずや若し海岸線は軍事上危ふしとならば此三艘を以て警護に備ふるも不可なかる可きに然るに猶ほ强て深山幽谷を穿たんとするは奇も亦極れる次第にして讀者少しく此邊より推察を下だしたらば軍用論者の如何に國家經濟に淡泊なるやを知るに餘りある可し我輩は衆議院が斷じて此等の僻論を排し軍備の事は別に海防策を講ずるみと〻定め鐵道に於ては專ら商用を重しとして一切の比較線をば都て經濟的に取捨せんみと與れ〻も新望に堪へざるなり

次に第二期線中より第一期に繰上げ再調査をなす可しとの修正論に就ては過日の我紙上に於ても其朝決暮改常なきを咎め且つ議會の信用の爲めに決して斯る輕擧なからんみとを勸告せしが是れ亦鄙言の容れられずして修正の論勢漸く募りつ〻ある上に彼の比較線にして採用せられざる線路地方の議員及び運動委員等は遺憾の餘り修正派と合併して先づ今年は着手するみと能はざらしめ來期議會までに再興を圖らんとするの色あるより其勢力決して侮る可らずイヨ〻議會に於て比較線の取捨決定するときは次で起る可き修正論に意外の贅成を生じて敷設法の運命に關するやも測り難しと云ふ人情故鄕に偏すとは云ひながら餘り無法の沙汰にして其眼中鐵道の必要もなく議會の信用もなく將た國家の經濟も顧みず唯地方の感情あるのみとは今ゝそ狂熱に前後を忘れて奔走もすれ後に至りて心を靜めて考へたらば獨り自から裏恥かしき心地せざらんや勿論鐵道敷設法は第三議會に於て匆〻の際、速決したるものなれば自から種々不完全の廉も少なからざる可しと雖も更に之を修正せんとすれば又別の修正現れ結局申分なき法案は之を望む可き決して得可らず修正の名正しく理尤もなるに似たれども其實少しも効能なきは修正論者が今日の意氣込を他人に移して考へたらば亦辯を俟たずして了解するに足るみとなる可し今や政府と議會とが衝突して纏に和協を裝ひたるものゝ天下の人民は皆目を欺て〻雙方の信用價値を觀察し〻ゝあるに當り議會の修正論者が不幸にも勝を制して一年たりとも鐵道事業を阻礙し爲めに空論成すなきの譏を高めたらば知らず何を以て之を拭はんとするか何れの點より見ても修正再調査の事はユメ今に至りて心にも思ふ可らず左れば鐵道問題は復た紛擾を要せざるなり唯比較線には商用の利害を專一として原案の設計を改め而して鐵道事業は一日も早く工事に着手するとと定む可きのみ

雜報

○一昨夜豫算委員の談判　一昨日衆議院特別豫算委員會に於て三名の委員を撰み政府と談判を開かしめたる次第は別項にも見ゆるが今その詳況を聞くに委員より政府に要求せし條件は二樣にして第一俸給額は政府案に同意する其代りに他の經費に至ては獨に衆議院に於て決議せし査定案に同意を表すべし第二若し政府にして第一の要求に同意する能はざるときは政府が削減すべしと云ふ彼の既定歲出四十九萬三千七百四十三圓五十七錢の外更に既定歲出中にて尙ほ五十萬圓を創減すべしと云に在りて政府よりは井上內務、陸奥外務、渡邊大藏の三大臣出席して委員との間に談判を爲し互に押問答を爲せしも結局政府は前二條の要求執れの方にも同意する能はず盲放ちしより談判遂に破裂して委員は八時半頃に退席し其旨を他の委員と話し尙ほ熟議の上昨日午前中に豫算委員總會を開くみとに決し散會せしは十時近き頃なりしと云ふ

○昨日の總豫算委員會　昨日は午前中に總豫算委員會を開く筈なりしも尙ほ政府と交渉の爲め彼此遇引し遂に正午過ぎより開會するに至れり今その模樣を聞くに政府よりは陸奥、渡邊の兩大臣を始め各政府委員出席の上先づ河野委員長より過日來の經過を報道し特別委員は政府と既定歲出の範圍に付て見解を異にし假りに會計法補則を基礎として既定歲出の範圍を定めしも之に據て政府と談判するときは却て議論を惹起し爲めに委員會の進歩を妨ぐるの恐あるを以て費目の論は暫く擱き單に費額の上に就て政府と談判するみと〻なりしに政府の申出でには四十九萬三千七百四十三圓五十七錢の外は削減する能はずと主張し爲めに三名の談判委員を設けて別項に記す如き二條の要求を爲せしも政府は四十九萬餘圓の削減は內閣に於て充分審議の上削減に同意し得らる〻丈けの最極度を示したる者にして此上の削減は到底出來がたしと答へ遂に同意を得る能はずして引分たりと述るや種々の質問起り夫より討論を始しに河嶋醇氏より大詔奉發の今日となりては從來の行掛りを忘れて唯だ聖旨を奉戴するの外なければ政府の申出で通り四十九萬餘圓の削減に同意し以て豫算の成立を計るべしとの動議を提出せしに續々贊成者ありしも尾崎行雄氏は之に反對して査定案の方針は第一期議會以來民黨が主張する所の大主眼にして解散も上奏も皆な之が爲めなるに今にして政府の言ふがまゝに屈從せば議會の本領は何を以て保たるべきや既定歲出中俸給二百萬圓を其儘に存して殘る所尙ほ百二十萬以上の巨額なるにも拘はらず僅に五十萬圓足らずの削減を以て滿足するとせば彼の冗費節減、民力休養の實何を以て擧ぐるを得んとて詰り四十九萬餘圓の外に尙ほ五十萬圓を刪り都合百萬圓を削減して飽までも查定案の主意を推通すべしとの意見を提出せしも何分委員の大數(即ち自由、同盟の兩派)は詔勅に對する和協の精神勝を制せしかば採決に及び河嶋氏の動議大多數にて可決し次に尾崎氏の說に賊き起立を命ぜしに起立者は改進黨の委員八名と自由黨の杉田定一氏のみなりし夫より更に

軍艦製造費　の項に移りしに先づ同費を復活するや否やを議決して分科に廻付し更に調査をなさしむ可しとの說と先づ分科に廻したる後に討議すべしとの兩說ありしに遂に前說勝を制し製艦費は復活するみとに決し經費の調査を爲すために主任の分科に廻すみとに決し尙ほ杉田定一氏は軍艦製造費復活すべからずとの動議を提出せしも贊成者は犬養毅氏のみにして其儘消滅せり尤も之より先き特別委員にて定めたる六十七條既定歲出の範圍に就き討論せしに尾崎氏は官廳俸給十分の一納付のみとに付て質問を起し渡邊、陸奥兩大臣との間に數回の問答ありて政府が法律若くは勅令を發布せず直に豫算を編制して差廻したるは違法の處置なるを以て納付金に關する豫算は政府にて正當の手續きを爲すまで政府に返上するみとに決し尙ほ既定歲出の範圍問題に移りしに後日に讓るみとに決し閉會せしは四時頃なりし

○第四科の委員會　別項豫算委員會の決議に基き海軍省所管の第四科に於ては其後直ちに委員會を開き復活せし軍艦費の調査に着手し仁禮海軍大臣伊藤次官も出席して昨日は夜に入りても審議し居りしが何分面倒なる問題なりしかば隨分議論多かりし由にて遂に同夜中に結了する筈なりし

○既定歲出の範圍　府の申出通り削減せしに就き區別するべし